

問 多子世帯に向けた支援は

答 在宅育児手当の支給等を実施



子育て環境支援に向け設置された（新）子ども家庭センター

組みとして、母子保健と児童福祉の一体化を促進する「子ども家庭センター」の設置、生後2カ月から満3歳までの第2子以降の子を在宅で養育する保護者に対する在宅

問 国は「子ども家庭庁」を創設し「こどもまんなか社会」の実現を目指した取り組みを図っている。村の取り組みを伺う。

答 村は、子育て世帯に向けた支援強化パッケージとしてハード・ソフトの両面からの支援策をまとめた。そのうち、新たな村の取



公明党 議員
うえき 植木 伸寿

問 道路冠水センサーの設置は、導入の有効性を研究したい

答 昨年9月の豪雨では、床上・床下浸水や、道路冠水による通行止めなどが発生した。大

組みとして、母子保健と児童福祉の一体化を促進する「子ども家庭センター」の設置、生後2カ月から満3歳までの第2子以降の子を在宅で養育する保護者に対する在宅

育児手当の支給、さらに、0歳児から2歳児までの第2子以降の児童の保育料の無償化や、幼児教育・保育の質の向上を目指した保育士に対する村独自の処遇改善を行う。加えて、民間保育施設への運営費の拡充や、保育ニーズの受け皿が充足するまで保育を実施する緊急保育所の整備に加え、学童クラブの受け皿確保策として、令和6年3月に閉園する舟石川幼稚園を活用した「舟石川学童クラブ（分室）」を開所する。

雨対策にどのように取り組むのか。

答 今後の雨水浸水被害軽減強化に向けては、中長期的対策と短期的取り組みに分けて実施する。短期的取り組みとしては、昨年9月に道路冠水した39カ所の測量などを進め、改修や浸透施設の設置などを検討する。なお、東海一丁目や真崎地区では、雨水集水ますの浸透化を行った。これは、雨水を地中に浸透させる工法で、東京都内など都市部で先行例がある。本工事が効果をもたらすものか、検証を加えつつ期待感をもって展開した

問 雨水のたまりやすい道路へは、冠水状況をいち早く村民に知らせる仕組みとして、冠水センサーの設置を行うってどうか。

答 提案の道路部冠水箇所への設置は、通行止めの対応遅れの改善が期待できると考える。浸水軽減策の検証と併せて導入の有効性を研究したい。



細浦・中央排水路に設置の浸水検知センサー